

**生徒の自己存在感の感受を高めるための実践研究**  
**—定時制高校における生徒指導の視点を生かした授業改善—**

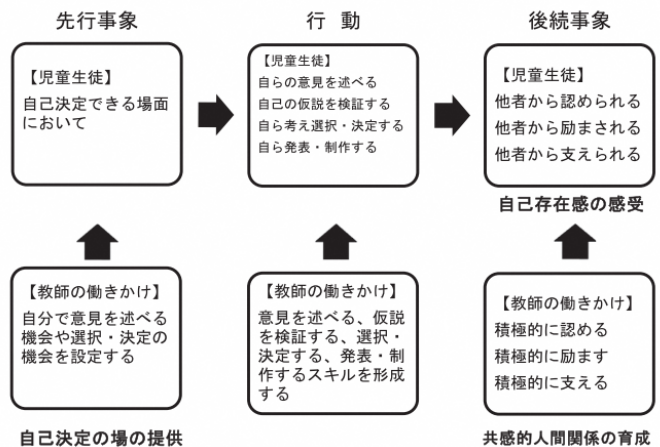
総合支援部 高等学校支援課 長期研修員 大友佑紀

**1 主題設定の理由**

定時制・通信制高校の役割は、中学校までの不登校経験者や高等学校の中途退学経験者、外国にルーツをもつ生徒、経済的に困難を抱える生徒など、多様な困難を抱える生徒の学び直しや立ち直りの機会を与える場が変わってきている。また、「定時制課程・通信制課程の現状について（文部科学省、2020）」では、「自分のペースで学べる定時制・通信制の教育は、不登校・中途退学経験者等への学び直しの機会の提供など、困難を抱える生徒への自立支援等の面でも大きく期待されている」としている。そのため、全国の定時制・通信制高校では、様々な学習プログラムを組み、多様な困難を抱える生徒の社会的な自立に向けた支援を行っている。

所属校は、昼間定時制の三部制・単位制高校であり、多様な学習選択や少人数制授業、日本語指導など、生徒の特性に応じた指導を実践し、多くの生徒の学習ニーズを満たしてきた。しかし、生徒の学習ニーズを満たすことは、選択授業毎に集団が異なり、生徒は多くの集団に属することになる。また、全日制高校と比較して、特別活動や学校行事が限られ、クラス集団での活動が少ない。よって、多様な背景をもつ生徒にとって人間関係を構築することが難しい環境であり、集団で培われる社会的資質・能力を育みにくいと感じてきた。したがって、所属校にとって、発達支持的生徒指導が重要な役割を担うと考えた。「生徒指導提要（文部科学省、2022）」では、発達支持的生徒指導は、「児童生徒の『個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える。』」としており、全ての児童生徒を対象とした生徒指導の基盤と示されている。また、授業も発達支持的生徒指導の場とされており、学習指導と生徒指導を一体化させた授業づくりに向け、生徒指導の視点である、「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安全・安心な風土の醸成」を意識した授業実践が求められている。所属校の現状を踏まえ、生徒指導の視点からの授業と授業集団に着目することとした。

先行研究（榊原岳、2022）は、「生徒指導の三機能」である「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」に行動随伴性を用いることで児童生徒の行動と教員の働きかけの関連性を明らかにしている。図1は、榊原が試案として作成した、行動随伴性による「生徒指導の三機能」の全体図である。教員が生徒に「自己決定の場の提供」をすることで、生徒が意見を述べたり、自己の仮説を検証したりするなどの良い行動が引き起こされた場



**図1 行動随伴性による「生徒指導の三機能」の全体図**

合、教員が積極的に認め、励まし、支える。この教員の働きかけが「共感的な人間関係の育成」であり、生徒の「自己存在感の感受」を高めることにつながるとしている。

榊原は「行動随伴性を用いて図式化することを試みたが、これについてはあくまでも試案である」としており、実践的な研究は行われていない。そのため、本研究では、榊原の児童生徒

の行動と教員の働きかけの関連性を踏まえ、教員からのアプローチとして「自己決定の場」の提供と「自己決定の場」での働きかけ、「共感的な人間関係」の育成を行い、生徒の「自己存在感の感受」の高まりにつながることを検証することにした。

## 2 研究の目的

定時制高校における授業実践において、生徒の「自己存在感の感受」につながる「自己決定の場」の提供と「自己決定の場」での働きかけ、「共感的な人間関係」を育成する手立てを提案し、生徒の「自己存在感の感受」を高める有効性を検証する。

## 3 研究の方法

所属校を研究協力校とし、全生徒と全教員を対象に、以下の手順を進める。

- (1) 生徒指導の視点に関する、生徒と教員のアンケート調査を行い「教員からのアプローチ」と「生徒の表れ」のそれぞれに該当する質問項目への回答結果から、授業での生徒の行動や教員による生徒への支援の実態を明らかにする。また、「自己存在感の感受」につながる、生徒の授業に対する意識や取組状況を分析する。
- (2) (1)の分析を基に、授業での生徒の意識や実態から、「自己存在感の感受」につながる手立てについて、研究協力校の教員に提案する。
- (3) (2)の提案を踏まえた授業実践後、(1)のアンケート調査を再度行い、生徒と教員の変容を分析することで、生徒の「自己存在感の感受」に向けた、生徒の「自己決定の場」と、「共感的な人間関係」の育成につながる手立ての有効性を検証する。

## 4 研究の内容

### (1) 事前アンケート調査の実施(7月上旬)

授業に関する生徒と教員の実態や意識を把握する目的で、生徒と教員を対象に「教員からのアプローチ」と「生徒の表れ」に関するアンケート調査項目を作成した。調査項目は、別紙資料1に示した。「ア 教員からのアプローチ」、「イ 生徒の表れ」の順にアンケート調査の結果を表1～7に示した。また、生徒のアンケート調査の結果を分析するため、スピアマンの順位相関係数(以下、相関係数( $\rho$ ))を求め、別紙資料2に示した。相関係数( $\rho$ )について、0.5以上0.7未満であれば中程度の相関、0.7以上であれば高い相関と示した。

### ア 教員からのアプローチ

#### (7) 生徒の「自己決定の場」に関する生徒と教員の実態(表1、表2)

「自己決定の場」に関する質問項目を「問いの設定」と「話し合いの場」、「発表する機会」の3つに分類した。生徒の回答結果を表1に、教員の回答結果を表2に示した。

問いの設定については、T-1と、S-1、S-2の肯定的な回答の割合に差がみられた。高い割合で教員は生徒に考えさせる問いを出しているが、生徒が解決したいと思うものになっていなかったり、自分の考えをもつことができなかつたりすることが推測された。

話し合いの場については、T-3の肯定的な回答の割合が低く、グループでの話し合いが積極的に行われていないことが示された。グループでの話し合いが少ないことから、S-5とS-6の肯定的な回答の割合が他の項目より低くなり、多くの生徒はグループ活動への参

加が苦手であることや、経験が不足していること、自信がなく行動することができない要因の一つと推測された。

発表する機会については、S-2 と S-8 の肯定的な回答の割合に差がみられた。生徒は、自分の考えをもつことができたとしても、それを授業集団内で発表することに抵抗を感じていると考えられた。

**表1 生徒(S)のアンケート調査結果(%) N=276**

		とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	肯定的な回答	否定的な回答
S-1	授業で、解決したいと思う問いが設定されている。	12.3	54.0	25.4	8.3	66.3	33.7
S-2	授業で、問いに対する、自分の考えをもつことができる。	20.3	52.9	21.0	5.8	73.2	26.8
S-3	授業で、問いに対し、考えるための十分な時間がある。	23.2	54.0	17.4	5.4	77.2	22.8
S-4	授業集団の仲間と一緒に話し合う時間がある。	16.7	50.0	24.6	8.7	66.7	33.3
S-5	グループ活動を行う授業では、自分の役割を理解している。	8.0	49.3	30.1	12.7	57.2	42.8
S-6	グループ活動を行う授業では、自分から行動することができる。	9.8	39.5	34.4	16.3	49.3	50.7
S-7	授業で、自分の考えを発表する機会がある。	15.9	51.1	24.6	8.3	67.0	33.0
S-8	授業で、自分の考えを発表することができる。	11.2	43.8	27.5	17.4	55.1	44.9

肯定的な回答：「とてもあてはまる」、「あてはまる」 否定的な回答：「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」

**表2 教員(T)のアンケート調査結果(%) N=41**

		とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	肯定的な回答	否定的な回答
T-1	授業で、生徒に考えさせる問いを出している。	12.2	75.6	12.2	0.0	87.8	12.2
T-2	授業で、生徒が考えるための時間を十分に取っている。	19.5	73.2	7.3	0.0	92.7	7.3
T-3	授業で、グループをつくり、話し合せている。	2.4	19.5	61.0	17.1	21.9	78.1
T-4	授業で、生徒が考えを発表する場を設けている。	9.8	58.5	24.4	7.3	68.3	31.7

肯定的な回答：「とてもあてはまる」、「あてはまる」 否定的な回答：「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」

**(イ) 教員の「働きかけ」に関する生徒と教員の実態(表3、表4)**

教員の「働きかけ」について、生徒の回答結果を表3に、教員の回答結果を表4に示した。

授業での生徒への働きかけについては、S-10 及び S-11 と、T-9、T-10、T-11、T-12、T-13 の肯定的な回答の割合に差がみられた。教員が生徒の発言や行動を肯定的に受け取ったり、褒めたりするなどの、働きかけを行おうとしていながらも、全ての生徒が意見を肯定的に受け取ってもらえたことや、意見を認めてもらえたことを十分に感じていないことが推測された。また、T-5、T-6、T-7、T-8 の項目の肯定的な回答の割合は高く、教員が生徒に対し学習支援を行おうとしていることが示された。しかし、肯定的な回答の「とてもよくあてはまる」を選択した教員の割合は低く、全ての生徒に対する十分な支援ができているとは感じていないと推測された。

**表3 生徒(S)のアンケート調査結果(%) N=276**

		とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	肯定的な回答	否定的な回答
S-9	興味・関心をもって授業を受けている。	19.6	51.1	21.0	8.3	70.7	29.3
S-10	授業で、自分の考えを(先生に)肯定的に聞いてもらえたことがある。	16.7	59.8	16.7	6.9	76.4	23.6
S-11	授業で、先生から認められたと感じたことがある。	17.8	49.6	22.1	10.5	67.4	32.6
S-12	授業が、「充実している」と感じたことがある。	13.8	50.7	23.2	12.3	64.5	35.5

肯定的な回答：「とてもあてはまる」、「あてはまる」 否定的な回答：「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」

表4 教員(T)のアンケート調査結果(%) N=41

		とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	肯定的な回答	否定的な回答
T-5	授業で、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。	4.9	87.8	7.3	0.0	92.7	7.3
T-6	授業で、生徒の学習到達度に応じた指導(支援)を行っている。	12.2	75.6	12.2	0.0	87.8	12.2
T-7	授業で、生徒の個々の特性に応じた指導(支援)を行っている。	7.3	80.5	12.2	0.0	87.8	12.2
T-8	授業で、生徒が考え行動するための指示を具体的に行っている。	7.3	75.6	17.1	0.0	82.9	17.1
T-9	授業で、生徒の発言や良い行動を褒めるようにしている。	26.8	68.3	4.9	0.0	95.1	4.9
T-10	授業で、誤った答えや不十分な答えを言った生徒には支援している。	12.2	85.4	2.4	0.0	97.6	2.4
T-11	授業に関する生徒の発言は、肯定的に受けとめるようにしている。	29.3	68.3	2.4	0.0	97.6	2.4
T-12	授業で、多様な意見を認めるよう生徒に促している。	26.8	65.9	7.3	0.0	92.7	7.3
T-13	授業で、生徒が安心して自分の意見を伝えることができるよう、間違いを言っても大丈夫な雰囲気を作っている。	17.1	75.6	7.3	0.0	92.7	7.3

肯定的な回答：「とてもあてはまる」、「あてはまる」 否定的な回答：「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」

イ 生徒の表れ

(7) 生徒同士の「共感的な人間関係」に関する生徒と教員の実態(表5、表6)

生徒の「共感的な人間関係」の表れについて、生徒の回答結果を表5に、教員の回答結果を表6に示した。

S-13、S-14、S-15の肯定的な回答の割合はいずれも60%未満であった。また、S-14、S-15と比べて、S-13は肯定的な回答の割合が低くなっていたことから、生徒は他者の意見や行動に関心をもってはいるが、自分の考えを表現することに自信をもてないと推測された。このことは、T-16や、T-3「授業では、グループをつくり、話し合っている」の肯定的な回答の割合の低さにも表れていると推測された。

表5 生徒(S)のアンケート調査結果(%) N=276

		とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	肯定的な回答	否定的な回答
S-13	授業で、自分の考えを授業集団の仲間に関いてほしいと感じたことがある。	9.1	25.4	40.6	25.0	34.4	65.6
S-14	授業で、授業集団の仲間が、どんな考えを持っているか聞きたいと感じたことがある。	14.1	39.1	30.1	16.7	53.3	46.7
S-15	授業で、授業集団の仲間の発言や良い行動を見つけようとしている。	9.8	50.0	25.7	14.5	59.8	40.2

肯定的な回答：「とてもあてはまる」、「あてはまる」 否定的な回答：「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」

表6 教員(T)のアンケート調査結果(%) N=41

		とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	肯定的な回答	否定的な回答
T-14	生徒は、授業に積極的に参加している。	4.9	63.4	31.7	0.0	68.3	31.7
T-15	生徒は、授業で、グループ活動に積極的に参加している。	0.0	46.3	43.9	9.8	46.3	53.7
T-16	生徒は、授業で、自らの考えを自信をもって発言している。	2.4	31.7	61.0	4.9	34.1	65.9
T-17	授業で、生徒同士が互いに助け合っている。	0.0	61.0	36.6	2.4	61.0	39.0

肯定的な回答：「とてもあてはまる」、「あてはまる」 否定的な回答：「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」

(4) 生徒の「自己存在感の感受」に関する生徒の実態(表7)

生徒の「自己存在感の感受」について、生徒の回答結果を表7に示した。S-16とS-17の肯定的な回答の割合は低くなっていた。また、S-16とS-17、S-15「授業で、授業集団の仲間の発言や良い行動を見つけようとしている。」の3つの項目間で、中程度から強い正の相関があるとわかった。生徒が授業集団内での発言や良い行動を見つけやすい環境を教員が整えることで、授業集団の仲間から認められたと感じたり、意見を認め合える仲間だと感じたりすることにつながると推測された。さらに、S-17はS-12「授業が、「充実している」と感じたことがある。」に中程度の正の相関があることもわかった。意見を認め合える授業集団をつくっていくことで、生徒の授業に対する充実感を高めることができると推測された。

表7 生徒(S)のアンケート調査結果(%) N=276

		とてもあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	肯定的な回答	否定的な回答
S-16	授業で、授業集団の仲間から認められたと感じたことがある。	8.0	39.5	35.1	17.4	47.5	52.5
S-17	授業集団を、意見を認め合える仲間だと感じたことがある。	13.4	43.1	29.0	14.5	56.5	43.5

肯定的な回答：「とてもあてはまる」、「あてはまる」 否定的な回答：「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」

(2) アンケート調査結果分析のまとめ

事前アンケート調査の結果から、教員が、問いの質を高めていくことや、生徒同士の話し合いの場や活動の場を設定することが必要であるとわかった。また、授業での生徒の発言や良い行動を、「褒める」、「認める」などの働きかけを授業集団全体に行う必要があることもわかった。

アンケート調査結果の分析と榊原の行動随伴性による「生徒指導の三機能」の全体図(図1)を基に、生徒の「自己存在感の感受」につながる授業実践に向けた概略図(図2)を作成した。

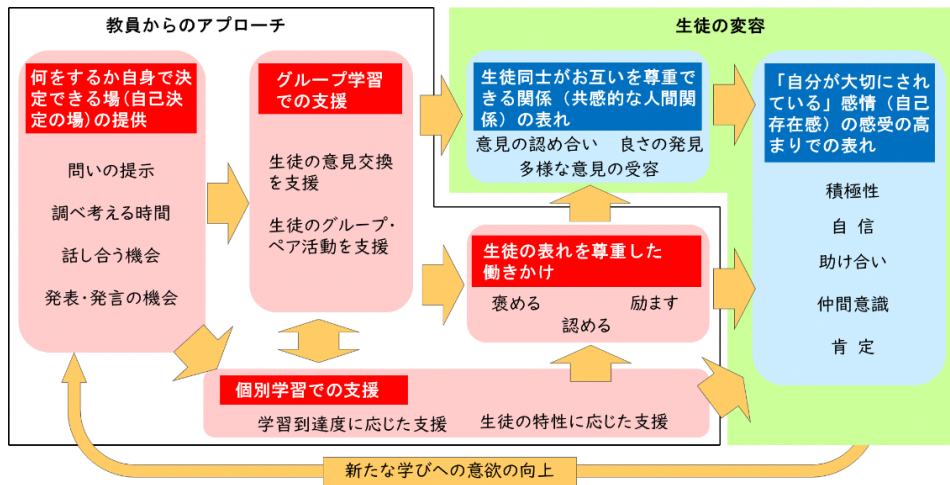


図2 生徒の「自己存在感の感受」につながる授業実践に向けた概略図

図2は、生徒の「自己存在感の感受」につながる授業実践の一連の流れを示している。教員が「自己決定の場」の提供として、グループでの話し合いの場や発表の機会を設定する。「自己決定の場」での働きかけとして、グループ学習を通じた意見交換やグループ活動での支援を行い、生徒を「褒める」や「認める」なども行い「共感的な人間関係」を育てていく。これらの「教員からのアプローチ」を教員が行うことで、「生徒の変容」の一つである生徒の「自己存在感の感受」につながると期待している。

(3) 研究協力校への依頼と授業実践

研究協力校の教員に、図2を用いて、教員からのアプローチによって期待できる生徒の変容について説明を行い、授業実践と「授業実践記録票」(図3)の作成を依頼した。「授業実践記録票」には、授業実践前に「本時の問い」や「学習活動」を記入し、「教員からのアプローチ(案)」については「自己決定の場の提供」、「グループ学習での支援」、「生徒の表れを尊重した働きかけ」の3点を記入することを依頼した。また、授業実践後には、「教員からのアプローチ」に加え、生徒の様子の記入を依頼した。

授業実践後、「本時の問い」と、本時の授業で行った「教員からのアプローチ」、教員からのアプローチによって促された「生徒の様子」について、「授業実践記録票」の記述を一部抜粋して示した。(表8)

**R5(後期) 授業実践記録票**

授業者 職[                      ]氏名[                      ]

(1) 本時の概要

教 科	科 目	年次・集団
日 時	令和 年 月 日 (      )	時 限
教 室	単 元 名	

(2) 本時のテーマ

(3) 本時の問いの設定(生徒への問い)や目標・ねらい  
※生徒同士がお互いに尊重できるような関係を促すための手立てについて考えてください。

**生徒の「自己決定の場」の提供**

(4) 本時の展開、学習活動、評価  
※「2時間続き」で1単元を扱う場合は休憩時間も入れて計画を記す。

展開(時間)	学習活動(簡条書きで端的に)	備 考
導入(分)		
展開(分)		
まとめ(分)		

(5) 本時(本日)の授業で行う教員からのアプローチ(案)

自己決定の場の提供	グループ学習での支援	生徒の表れを尊重した働きかけ
-----------	------------	----------------

(6) 授業評価(授業者は授業終了後、自己評価を記入し、提出する)

項 目	評 価	評 価 基 準			
		SS	S	A	B
展開の仕方(板書・発問・時間配分・内容の配列等)		板書や発問が効果的になされ、内容の配列や時間配分がきわめて適切で、授業の流れがたいへんよい。	板書や発問が有効になされ、内容の配列や時間配分が適切で、授業の流れがよい。	板書、発問、内容の配列及び時間配分がおおむね適切である。	板書、発問、内容の配列及び時間配分が工夫・改善が必要である。
教材研究成果及び生徒の活動(反応・満足度等)		生徒の実態、本時の目標に沿った教材が効果的に活用され、多くの生徒が主体的に授業に参加している。	生徒の実態、本時の目標に沿った教材が活用され、生徒が授業に参加している。	生徒の実態、本時の目標に沿った教材研究がなされ、教員の指示に従い取り組んでいる。	教材研究の成果が十分に発揮されていないため、生徒が十分に授業に取り組んでいない。
本時の目標・ねらいの達成度		本時の目標やねらいが十分に達成されている。	本時の目標やねらいが達成されている。	本時の目標やねらいがほぼ達成されている。	本時のねらいや目標が十分に達成されていない。

(7) 本時(本日)の授業で行った「教員からのアプローチ」(授業者は授業終了後に記入)

自己決定の場の提供	グループ学習での支援	生徒の表れを尊重した働きかけ
<b>実施できた教員からのアプローチ</b>		

(8) 本時(本日)の授業で行った「教員からのアプローチ」での生徒の様子

<b>教員からのアプローチで表れた生徒の様子</b>
----------------------------

(9) 他指導者の授業を見て、参考になった「教員からのアプローチ」、それに伴う生徒の活動の様子

(教科:                      )	先生	<教員からのアプローチ>
		<生徒の様子>

**図3 「授業実践記録票」左：表面（授業実践前に記入） 右：裏面（授業実践後に記入）**

**表8 「授業実践記録票」の記述(一部抜粋)**

教員からのアプローチ	(3) 本時の問いの設定や目標・ねらい	(7) 本時の授業で行った「教員からのアプローチ」(授業での支援や働きかけ)	(8) 本時の授業で行った「教員からのアプローチ」での生徒の様子
自己決定の場の提供	世界の中心の存在だったはずの中華皇帝が夷狄に屈したとき、儒教道徳はどう変化したか。	普段は反応のない生徒は早めに切り上げ次に移るのだが、今回は聞き方を変え、反応が出るのを根気強く待った。	<u>ほとんどの生徒は何とか発問に答えようと努力する姿勢を見せてくれた。</u> 基本的に生徒は答えたい、発信したいのだと認識を新たにすることができた。
	好きな絵を英語で紹介しよう。	自分の考えを他者に伝える場を提供し、生徒の発表を促した。	生徒自身が興味あることを他者に伝えることができて、嬉しそうだった。また、 <u>他者の発表も興味深くうなずきながら、しっかり聞くことができていた。</u>
	日本と清が争った戦争は何を世界にもたらしたのか。	全体の前での発表が得意でない生徒への表現方法として、 <u>考えをタブレットで撮影し、全体で共有した。</u>	全体の前で意見を発表することができないが、 <u>良い意見を全体に共有することは、生徒の自信や、授業へのモチベーションにつながった。</u>
グループ学習での支援	よりよい社会をつくり生きていくために～社会づくり曼荼羅をつくらう～	グループ学習・グループ発表は初めての試みであったが、 <u>グループ分けや、役割分担等を明確化し、協働学習及び発表ができる支援を行った。</u>	生徒は予想以上に意欲的に取り組むことができた。 <u>グループ学習を通じて協力する姿勢、発表を通じて認め合う姿勢がみられた。</u>
	当時の人々にとって物の怪とはどんな存在だったのか。	Google Jamboard を活用し、生徒の特性に合わせた表現方法をとることで、 <u>話し合いを得意としない生徒でも意見を出しやすい環境を整えた。</u>	わからないことは、自分で調べたり、周囲と相談したり解決しようとしていた。また、 <u>話し合いは積極的に行えない生徒が、Google Jamboard には意見を書いている姿がみられた。</u>
	実店舗の「ワークマン」の変容とその戦略について、学んだ知識から具体的にイメージしよう。	身近な企業のイメージが、 <u>自分と他者とのように異なっているのか意見交換を通して把握し、自身の気づきや、興味につながるよう支援を行った。</u>	授業に、興味を持って取り組んでいた。生徒は、 <u>ワークマンの企業イメージ把握が製品政策のマーケティングにどう反映されていくのか理解し、互いのイメージの違いや、自身の気づきからから理解を深められたと感じている。</u>
生徒の表れを尊重した働きかけ	美味しさ(破れず、肉汁を逃さない)と、出来上がりの美しさを両立させる餃子の包み方とは。	上手な包み方(美味しさと出来上がりの美しさを両立している)の生徒を <b>師範</b> とした。	餃子を包む場面では、 <u>実習班の中で包み方を見せ合ったり、師範とした生徒の包み方を見に行ったりする姿がみられた。</u> 生徒は、きれいに包みたい、上手に包みつつ、オリジナリティを出したいといった気持ちが感じられた。
	交通社会の一員として、自身が身につける資質とは何か。	生徒個人やグループで考えた意見を <b>肯定的に受け取り</b> 、生徒たちの自発的な発言を促した。	グループ活動において、 <u>教員からのアプローチによって普段よりも活発に活動していたと思う。</u> 講義型の授業中心ではなく、 <u>主体的で対話的な活動が中心になると、生徒の授業に対する参加意欲も向上しているように感じた。</u>

「授業実践記録票」の記述から、生徒の「自己決定の場」の提供では、教員が生徒の発表の機会を増やし、発表における生徒の表現方法を工夫し、十分な時間を確保した。生徒の様子として、生徒は発表で答えたい、意見や考えを伝えたいということが明らかになった。「グループ学習での支援」では、意図的にグループ学習を増やし、話し合いの方法を工夫した。生徒の様子として、生徒同士の話し合いや認め合いが促されたことがわかった。「生徒の表れを尊重した働きかけ」では、教員が集団内で生徒を認め、肯定的に意見を受け取ることを行った。生徒の様子として、生徒の授業への意欲の向上や生徒同士の教え合いが促されたことも示された。これらの手立ては、普段の授業を大きく変えて行うものではなく、今まで行ってきた生徒への支援を、より丁寧に行うことを重視していた。授業を通じた働きかけや支援が、生徒の社会的資質・能力を育む手段の一つであることが明らかになった。

#### (4) 事後アンケート調査の実施 (12月上旬)

10月上旬から11月下旬までの約2カ月の研究授業実践の後、事前調査に項目を追加し、同じ方法で生徒と教員にアンケート調査を実施し、結果を比較した。「ア 教員からのアプローチ」、「イ 生徒の変容」、「ウ 生徒が期待している教員の働きかけと支援」の順にアンケート調査の結果の一部を図4から図12、表9から表11に示した。「ウ 生徒が期待している教員の働きかけと支援」では、今後の授業でのグループ学習の在り方について示した。生徒と教員のアンケート調査の追加項目は別紙資料1に、事後アンケート調査の相関係数( $\rho$ )は別紙資料4に示した。

#### ア 教員からのアプローチ

##### (7) 生徒の「自己決定の場」に関する生徒と教員の回答の比較(図4、5)

生徒の「自己決定の場」について、生徒の回答結果を図4、教員の回答結果を図5に示した。

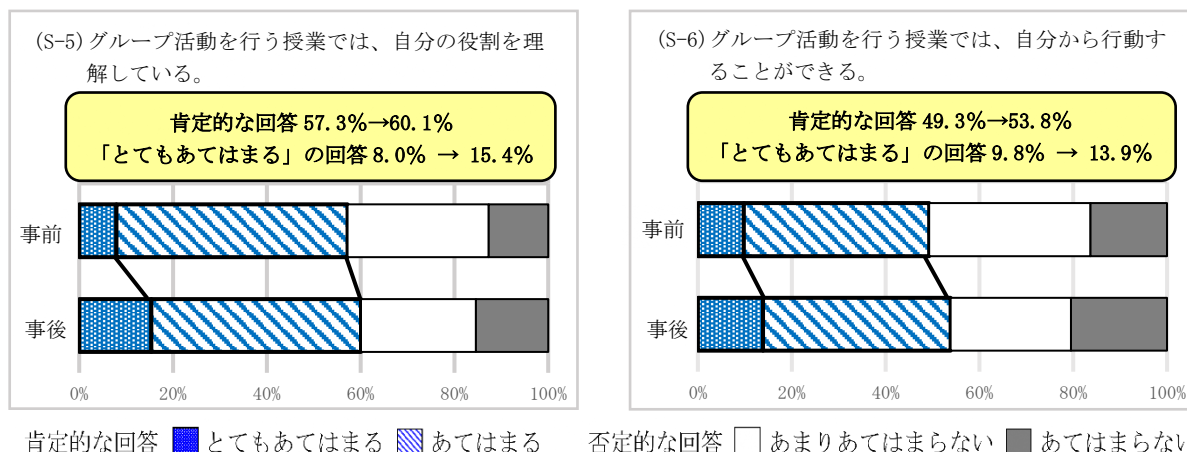
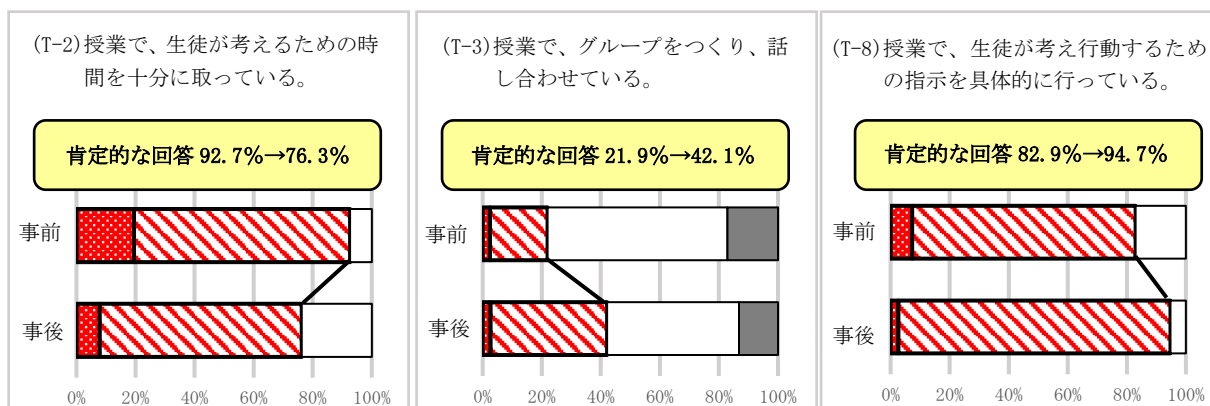


図4 生徒(S)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=276、事後調査 N=273)

生徒のグループ活動の取組について、S-5では、肯定的な回答の割合が増加し、「とてもあてはまる」を選択した生徒については、7ポイント増加し、有意な差がみられた。(カイ2乗検定、 $p < .05$ ) また、S-6では、有意な差とまではいえないものの、肯定的な回答の割合は増加した。(カイ2乗検定、 $.05 < p < .10$ ) さらに、事後調査のS-5とS-6には高い正の相関があるとわかった。グループ活動を意図的に取り入れた授業実践をすることで、自身の役割を理解し行動できる生徒が増加する傾向にあることが示された。



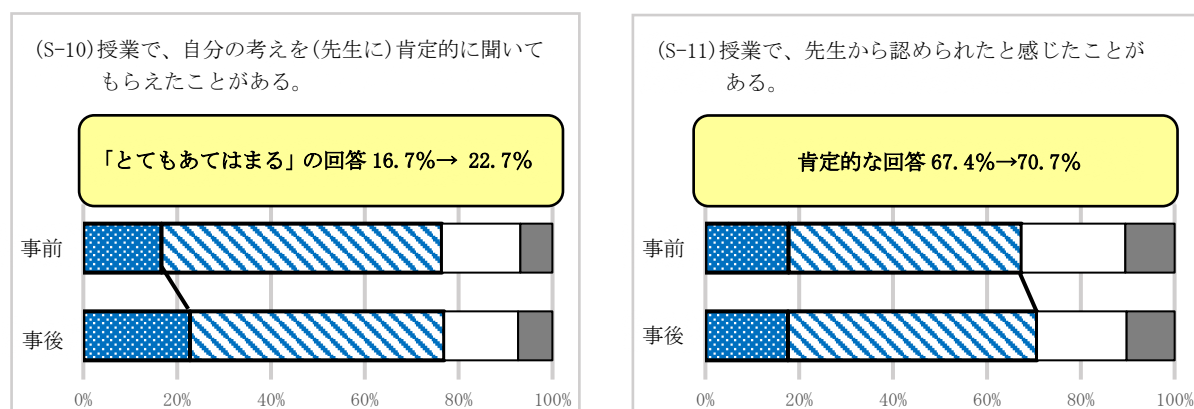
肯定的な回答 ■ とてもあてはまる ■ あてはまる 否定的な回答 □ あまりあてはまらない ■ あてはまらない

図5 教員(T)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=41、事後調査 N=38)

教員によるグループ活動の場の提供や支援について、T-2 で肯定的な回答が減少したことは、多くの教員がグループ活動を積極的に実践したことで、生徒の考える時間が十分でないと感じたかと推測された。T-3 では、肯定的な回答の割合が 20 ポイント、T-8 も 10 ポイント、どちらも有意な差とまではいえないものの増加した。(カイ 2 乗検定、 $p > .10$ ) 授業実践以外の授業でも、教員が、意図的に話し合いの場を設定し、生徒が考え行動するための支援を行おうとしたと推測された。

(イ) 教員の「働きかけ」に関する生徒と教員の回答の比較(図6、7)

教員の「働きかけ」について、生徒の回答結果を図6、教員の回答結果を図7に示した。



肯定的な回答 ■ とてもあてはまる ■ あてはまる 否定的な回答 □ あまりあてはまらない ■ あてはまらない

図6 生徒(S)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=276、事後調査 N=273)

生徒が感じている教員の「働きかけ」について、S-10 では、肯定的な回答に有意な差とまではいえないものの、(カイ 2 乗検定、 $.05 < p < .10$ ) 「とてもあてはまる」の割合が増加した。また、事後調査の S-10 と S-11 には中程度の正の相関があるとわかった。教員が生徒の意見を肯定的に聞くことが、生徒が教員から認められたと感じることにつながると推測された。



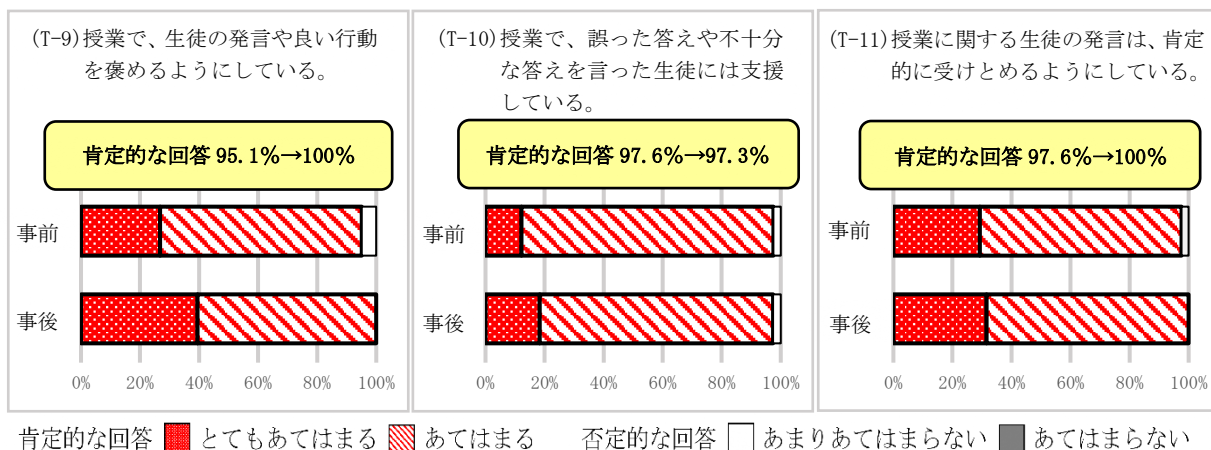


図7 教員(T)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=41、事後調査 N=38)

教員の「働きかけ」について、T-9 と T-11 の事後調査では、肯定的な回答が 100%であった。全ての教員が授業実践を通して、生徒の発言や行動を褒め、生徒の発言を肯定的に受けとめることを、意識して行ったことがわかった。

## イ 生徒の変容

### (7) 生徒同士の「共感的な人間関係」の表れに関する生徒の変容(図8、9)

生徒同士の「共感的な人間関係」について、生徒の回答結果を図8、教員の回答結果を図9に示した。

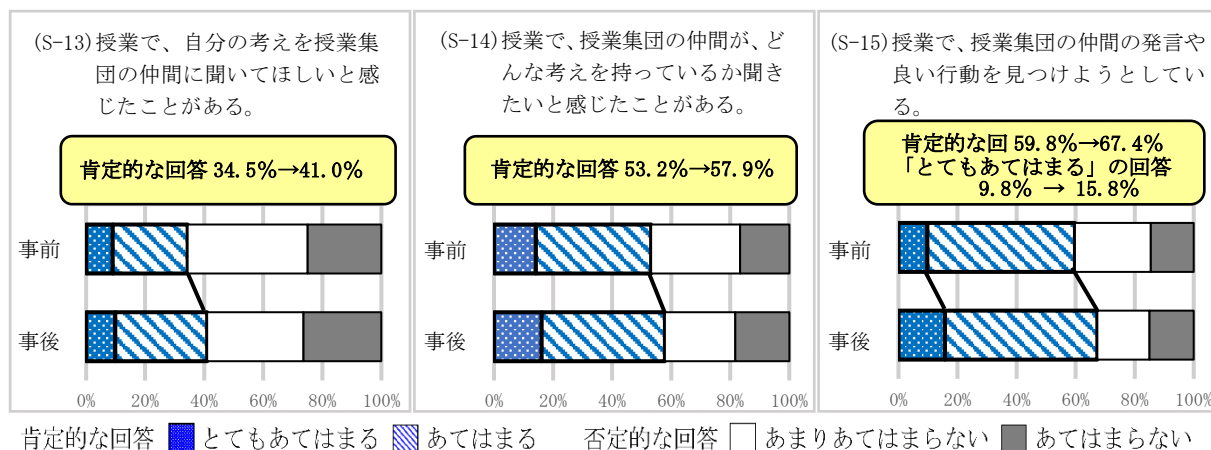


図8 生徒(S)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=276、事後調査 N=273)

生徒の「共感的な人間関係」の表れについて、S-13 や S-14 では、有意な差とまではいえないものの、肯定群の回答の割合が 5 ポイント増加していた。(カイ 2 乗検定、 $p > .10$ ) S-15 では、肯定群の回答の割合が 7 ポイント増加し、有意な差がみられた。(カイ 2 乗検定、 $p < .05$ )

教員からみた生徒の「共感的な人間関係」について、T-15 では、有意な差とまではいえないものの、肯定的な回答の割合が 10 ポイント増加した。(カイ 2 乗検定、 $p > .10$ ) T-17 では、有意な差とまではいえないものの、(カイ 2 乗検定、 $.05 < p < .10$ ) 授業で、生徒同士が互いに助け合っていると感じている教員が増加していることや、「とてもあてはまる」の回答が選択され、生徒の意識が変化していると推測された。また、事後調査の T-15 と T-17 には中程度の正の相関があるとわかった。積極的にグループ活動を取り入れ

ていくことで、生徒のグループ活動への積極的な参加や生徒同士の助け合いにつながると期待される。

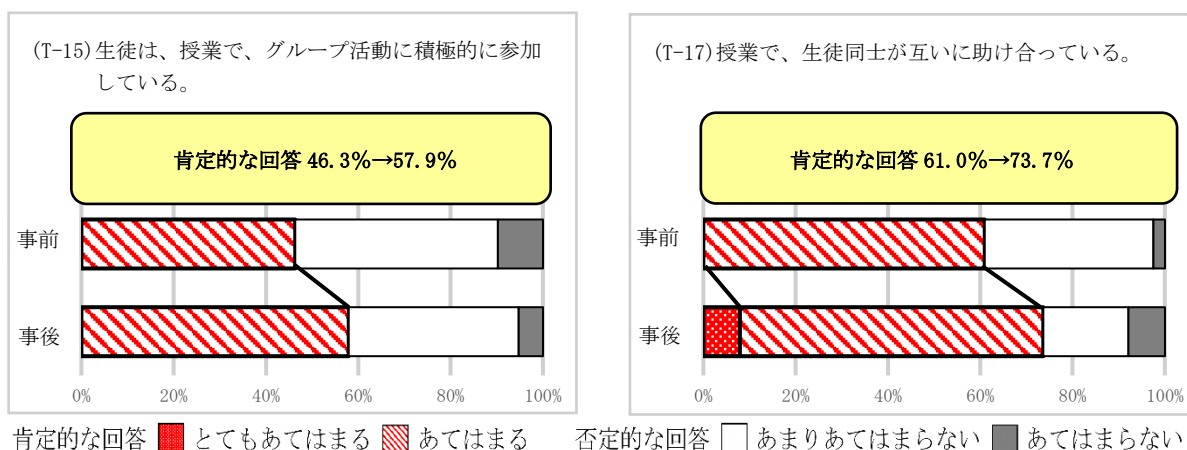


図9 教員(T)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=41、事後調査 N=38)

#### (イ) 生徒の「自己存在感の感受」の高まりに関する生徒の変容(図10)

生徒の「自己存在感の感受」について、生徒の回答結果を図10に示した。

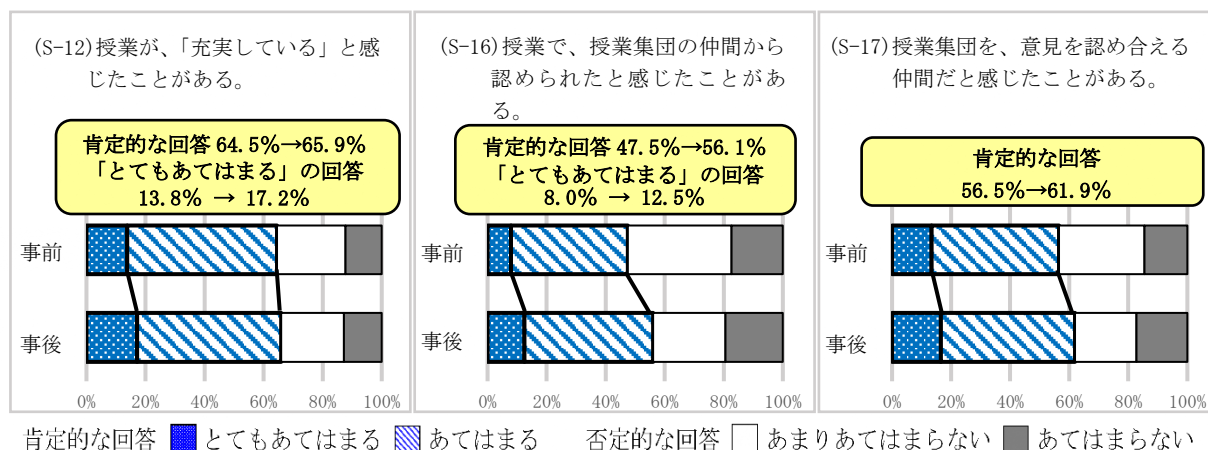


図10 生徒(S)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=276、事後調査 N=273)

S-16では、肯定的な回答の割合が8ポイント増加し、有意な差がみられた。(カイ2乗検定、 $p < .05$ ) S-17では、有意な差とまではいえないものの、肯定的な回答の割合が5ポイント程度増加した。(カイ2乗検定、 $p > .10$ ) S-12はほとんど差がみられなかった。事後調査のS-17とS-15「授業で、授業集団の仲間の発言や良い行動を見つけようとしている」、S-16には高い正の相関があるとわかった。授業集団の仲間の発言や良い行動を見つけようとする行動や、授業集団の仲間から認められたと感じることが、授業集団を、意見を認め合える仲間だと感じることにつながると推測された。また、S-16とS-17、にS-5「グループ活動を行う授業では、自分の役割を理解している。」とS-6「グループ活動を行う授業では、自分から行動することができる。」にもそれぞれ中程度の正の相関がみられることがわかった。生徒は、自分の役割を理解し行動できるようになることが、授業集団の仲間から認められることや、意見を認め合える仲間だと感じることにつながると推測された。

(ウ) 生徒の実感した成長に関する生徒の変容(表9)

生徒が実感した「授業での成長」についての自由記述を一部抜粋したものを以下に示した。(表8)意図的にグループ活動を取り入れたことで、生徒が積極的に話し合えるようになったと感じていることや、意見を話す機会が増えたと感じていることがわかった。また、生徒の表れを尊重した教員からの働きかけで、生徒が成長を実感するきっかけになっていることもわかった。

表9 生徒が実感した「授業での成長」についての自由記述(一部抜粋)

後期の授業の中で、あなたが成長していると感じたことについての自由記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に話し合いに参加するようになった。</li> <li>・自分の意見を言う機会が増えたこと。</li> <li>・先生に褒められたとき。</li> <li>・問題から逃げたつもりが問題を先送りしていただけだったと理解したとき。</li> </ul>

ウ 生徒が期待している教員の働きかけや支援

(7) 生徒が期待している「自己決定の場」の提供について(図11、表10)

今後の授業展開について、生徒の回答結果を図11と表10に示した。

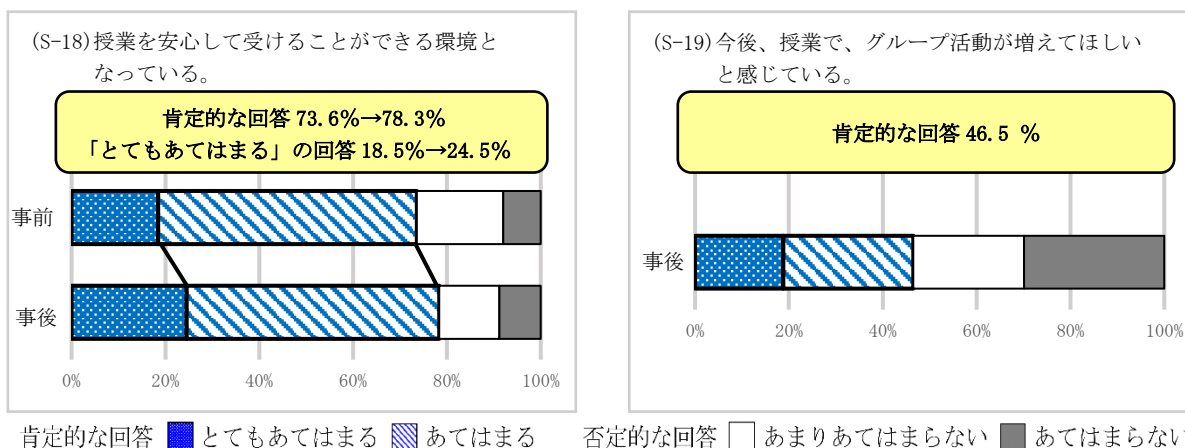


図11 生徒(S)アンケート調査結果(%) (事前調査 N=276、事後調査 N=273、S-19 は N=271)

S-18では、有意な差とまではいえないものの、(カイ2乗検定、.05<p<.10) 肯定的な回答の割合は増加した。授業実践を通して、授業集団と話し合う機会が増加したことで、授業集団内でのコミュニケーションに不安を感じていた生徒が減少したと推測された。S-19では、肯定的な回答の割合が46.5%であった。多くの生徒が、普段の授業や授業実践を通して、グループ活動を増やしてほしいと感じていることがわかった。S-19とS-17「授業集団を、意見を認め合える仲間だと感じたことがある。」には、中程度の正の相関があるとわかった。生徒は、グループ活動を学びに向かうための場だけではなく、授業集団の仲間と認め合う場と感じていることが推測された。

表10のS-19の肯定的な回答の理由についての自由記述では、授業集団の仲間と良好な関係を築きたいといった回答が多く、学校での良好な人間関係を築くための機会として、授業でのグループ活動に期待していることがわかった。一方で、否定的な回答の理由についての自由記述では、他者とのコミュニケーションが苦手であることや、一人で考えたいなどが挙げられた。しかし、今までの授業でもグループ活動が十分と回答している生徒もおり、グループ活動が苦手、またはやりたくないといった理由だけで、否定的な回答が選択されているわけではないとわかった。

表 10 グループ活動の取組に関する生徒の自由記述

今後の授業について、グループ活動の取組に関する自由記述（一部抜粋）
<p>【肯定的な回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りと話すことで自分の意見に自信をもつきっかけになって意見を発表しやすくなるから。</li> <li>・人と意見交換することが大切だと思うし、話し合いにより意見を広められるから。</li> <li>・他の人の意見を聞きたいと感じることが多いため。</li> <li>・みんなが協力的になるから。</li> <li>・グループ活動が増えることによって今後話しやすくなるし、仲も深まると思うから。</li> </ul> <p>【否定的な回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人が好きで、1人で行動したいから。</li> <li>・グループ活動や二人組になることや友達以外と話すことが苦手だから。</li> <li>・自分の意見を短時間でまとめて発表するのがとても苦手だから。</li> <li>・グループ活動の授業を増やすと、授業に参加する人が減ってしまうから。</li> <li>・自分は1人で黙々と考える方が性に合っている為、今のままでもグループ活動は十二分であり、増えなくても良い。</li> </ul>

(イ) 教員の働きかけや支援について (図 12、表 11)

「今後の授業」について、教員の回答結果を図 12 と表 11 に示した。

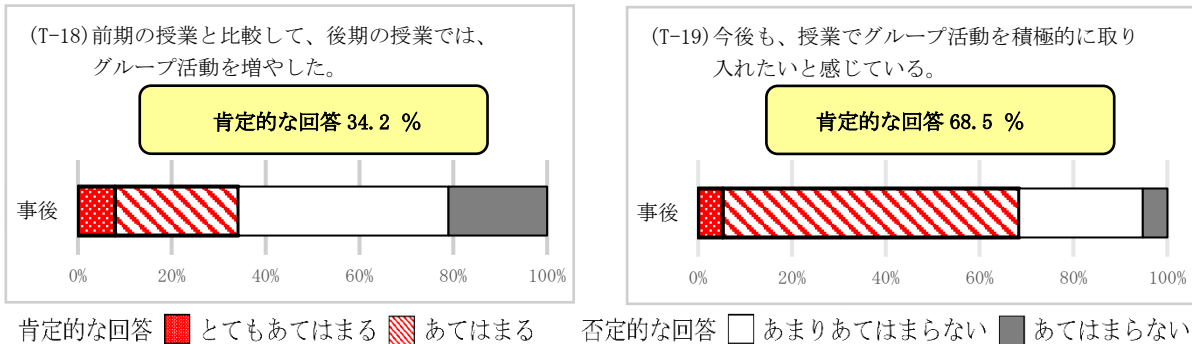


図 12 教員 ( T ) アンケート調査結果 (%) (事前調査 N=41、事後調査 N=38)

T-18 では、肯定的な回答の割合が 34.2%であった。授業実践前からグループ活動を行っている教員もおり、肯定的な回答が少なくなっていると推測された。T-19 では、肯定的な回答の割合は 68.5%であった。事後調査の T-19 と T-18、T-3「授業で、グループをつくり、話し合っている。」には中程度の正の相関があるとわかった。意図的にグループ活動を増やした教員が、グループ活動を通して、生徒の成長を実感したため、今後も授業でグループ活動を取り入れたいと感じていると推測された。

表 11 の T-19 の肯定的な回答の理由についての自由記述では、生徒の特性に合わせて意見の表現方法を取り入れたことで、生徒が意欲的に表現できたと示されていた。また、人間関係を構築することを得意としていない生徒にとって、少人数で行うグループ活動は、社会性を育むきっかけになると感じていることも記述されていた。

表 11 今後のグループ活動についての教員の自由記述

今後も、授業でグループ活動を取り入れたいと感じていることについての自由記述（一部抜粋）
<p>【肯定的な回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の性格にもよるが、多くの生徒は、テーマや課題を明確にすると、自分の意見や考えを表現することに楽しみを感じるから。</li> <li>・皆の前で意見を述べたり表現したりするのが苦手な生徒でも、ワークシートに表現するのが好きな生徒もいる。</li> <li>・人との関りを苦手とする生徒が多く、高校卒業後、社会に適応するためには、グループ活動が大切であると痛感する。</li> <li>・全日制と異なり、異なる年次の生徒と交流する機会だけでも生徒の成長に良い影響を与えると考える。また、協働活動でしか得られない学びがあると考えるため。</li> <li>・もともと実施している。継続して行う。</li> </ul> <p>【否定的な回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に出席する生徒が毎回異なり、なかなかグループ活動は、難しい。また、生徒の特性からグループ活動に参加できない生徒もいる。</li> <li>・話し合いは定着度を高める効果があることは認識しているが、総合的な基礎知識が少ないと深まった話し合いは難しいと感じる。</li> <li>・十分な知識のない意見を共有し合うよりも、自分ひとりでじっくり考え、表現する時間の方がはるかに大切だと考えるから。</li> </ul>

## 5 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

ア 生徒の「自己決定の場」の提供と「自己決定の場」での働きかけ、「共感的な人間関係」の育成の手立てとして、授業実践でグループ学習を意図的に取り組んだ。授業実践を通し、生徒の特性に合わせた「自己決定の場」の提供と「グループ学習での支援」、「生徒の表れを尊重した働きかけ」を行うことが、生徒の社会的資質・能力を育むことにつながると考えられた。

イ 教員が「自己決定の場」の提供と「共感的な人間関係」の育成を促したことで、授業集団の仲間に認められたと感じた生徒が増加した。そのため、授業実践や普段の授業を通して、「自己決定の場」の提供や「自己決定の場」での働きかけ、「共感的な人間関係」の育成するそれぞれの手立てが、生徒の「自己存在感の感受」の高まりにつながると考えられた。それにより、榊原が試案として作成した「行動随伴性による『生徒指導の三機能』の全体図」を検証することができた。

ウ 授業は、生徒にとって学ぶ場であり、授業集団と良い人間関係を構築する場であると示されたことから、研究協力校の生徒の特性によって効果は異なるが、学習指導と生徒指導の一体化は生徒の成長にとって効果があると確認できた。

### (2) 今後の研究課題

ア グループ学習は、「自己存在感の感受」の高まりにつながる手立ての一つとして効果を上げることができた。そのため、グループ学習を継続的に授業に取り入れることが支援体制の構築につながると考えられた。

イ 他者との関わり合いを必要と感じていない生徒も一定数在籍しているため、教員は、グループ学習以外の「自己決定の場」の機会や質を向上させ、生徒同士の「共感的な人間関係」を育む手立てを考えていく必要がある。

### 【参考文献・資料】

文部科学省(2020)定時制課程・通信制課程の現状について

文部科学省(2020)中央教育審議会「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ」

文部科学省(2022)生徒指導提要

榊原岳(2022)生徒指導の三機能は行動随伴性で説明可能か

井上 浩史(2020)今、教師と学校に求められていること

－生徒指導の観点で考える力のある教師・学校とは－

岩手県立総合教育センター(2005)中学校における積極的な生徒指導の在り方に関する研究

－日常の授業に生徒指導の機能を生かす手引きの作成をとおして－

別紙資料1 生徒と教員のアンケート調査項目一覧（事前・事後）

生徒のアンケート調査項目（事前）

- (1) あなたの三部制の中の所属を選んでください。
- (2) あなたの年次を選んでください。
- (3) 学校生活で、積極的に取り組んでいる、または取り組みたいものはどれですか。（複数選択可）
- (4) 興味・関心をもって授業を受けている。
- (5) 授業で、解決したいと思う問いが設定されている。
- (6) 授業で、問いに対し、考えるための十分な時間がある。
- (7) 授業で、問いに対する、自分の考えをもつことができる。
- (8) 授業で、自分の考えを発表する機会がある。
- (9) 授業で、自分の考えを発表することができる。
- (10) 授業で、自分の考えを肯定的に聞いてもらったことがある。
- (11) 授業で、先生から認められたと感じたことがある。
- (12) 授業集団の仲間と一緒に話し合う時間がある。
- (13) 授業で、自分の考えを伝えられるグループはどれですか。（複数選択可）
- (14) 授業で、自分の考えを授業集団の仲間聞いてほしいと感じたことがある。
- (15) 授業で、授業集団の仲間が、どんな考えを持っているか聞きたいと感じたことがある。
- (16) 授業で、授業集団の仲間から認められたと感じたことがある。
- (17) 授業で、授業集団の仲間の発言や良い行動を見つけようとしている。
- (18) 授業集団を、意見を認め合える仲間だと感じたことがある。
- (19) グループ活動を行う授業では、自分の役割を理解している。
- (20) グループ活動を行う授業では、自分から行動することができる。
- (21) 授業が、「充実している」と感じたことがある。
- (22) 授業を安心して受けることができる環境となっている。

教員のアンケート調査項目（事前）

- (1) 担当している三部制の所属を選んでください。
- (2) 担当している学年を選んでください。
- (3) 生徒は、授業に積極的に参加している。
- (4) 生徒は、授業で、グループ活動に積極的に参加している。
- (5) 生徒は、授業で、自らの考えを自信をもって発言している。
- (6) 授業で、生徒同士が互いに助け合っている。
- (7) 授業で、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。
- (8) 授業で、生徒が考え行動するための指示を具体的にしている。
- (9) 授業で、生徒の学習到達度に応じた指導を行っている。
- (10) 授業で、生徒の個々の特性に応じた指導を行っている。
- (11) 授業で、生徒に考えさせる問いを出している。
- (12) 授業で、生徒が考えるための時間を十分に取っている。
- (13) 授業で、生徒が考えを発表する場を設けている。
- (14) 授業で、グループをつくり、話し合わせている。
- (15) 授業で、生徒の発言や良い行動を褒めるようにしている。
- (16) 授業で、生徒が安心して自分の意見を伝えることができるよう、間違いを言っても大丈夫な雰囲気を作っている。
- (17) 授業で、誤った答えや不十分な答えを言った生徒には支援している。
- (18) 授業に関する生徒の発言は、肯定的に受けとめるようにしている。
- (19) 授業で、多様な意見を認めるよう生徒に促している。

生徒のアンケート調査追加項目（事後）

- (23) 今後、授業で、グループ活動が増えてほしいと感じている。
- (24) (23)の回答の理由を記入してください。  
自由回答のため、書かなくても大丈夫です。
- (25) 後期の授業の中で、あなたが成長していると感じた場面があれば入力してください。  
自由回答のため、書かなくても大丈夫です。

教員のアンケート調査追加項目（事後）

- (20) 前期の授業と比較して、後期の授業では、グループ活動を増やした。
- (21) 今後も、授業でグループ活動を積極的に取り入れたいと感じている。
- (22) (21)の回答の理由を入力してください。
- (23) 授業で、生徒へのグループ活動の支援以外に、実践した生徒の成長につながる支援（手立て）等があれば入力してください。

別紙資料2 スピアマンの順位相関係数一覧

生徒のアンケート調査結果（事前調査）

	(S-1)	(S-2)	(S-3)	(S-4)	(S-5)	(S-6)	(S-7)	(S-8)	(S-9)	(S-10)	(S-11)	(S-12)	(S-13)	(S-14)	(S-15)	(S-16)	(S-17)	(S-18)
(S-1)	1.000																	
(S-2)	0.492**	1.000																
(S-3)	0.365**	0.577**	1.000															
(S-4)	0.272**	0.249**	0.273**	1.000														
(S-5)	0.444**	0.478**	0.384**	0.327**	1.000													
(S-6)	0.342**	0.423**	0.269**	0.364**	0.586**	1.000												
(S-7)	0.395**	0.504**	0.387**	0.334**	0.346**	0.338**	1.000											
(S-8)	0.374**	0.517**	0.282**	0.281**	0.383**	0.514**	0.612**	1.000										
(S-9)	0.610**	0.538**	0.407**	0.265**	0.358**	0.384**	0.364**	0.405**	1.000									
(S-10)	0.334**	0.521**	0.409**	0.217**	0.475**	0.332**	0.467**	0.374**	0.431**	1.000								
(S-11)	0.374**	0.498**	0.481**	0.280**	0.441**	0.440**	0.385**	0.389**	0.432**	0.548**	1.000							
(S-12)	0.332**	0.445**	0.463**	0.337**	0.380**	0.405**	0.273**	0.294**	0.418**	0.387**	0.401**	1.000						
(S-13)	0.367**	0.280**	0.212**	0.343**	0.384**	0.507**	0.299**	0.426**	0.430**	0.283**	0.331**	0.269**	1.000					
(S-14)	0.414**	0.350**	0.274**	0.300**	0.373**	0.394**	0.252**	0.367**	0.459**	0.291**	0.276**	0.386**	0.618**	1.000				
(S-15)	0.392**	0.380**	0.322**	0.394**	0.519**	0.439**	0.307**	0.315**	0.420**	0.408**	0.429**	0.411**	0.493**	0.576**	1.000			
(S-16)	0.420**	0.370**	0.340**	0.319**	0.517**	0.452**	0.268**	0.305**	0.427**	0.438**	0.471**	0.395**	0.507**	0.491**	0.626**	1.000		
(S-17)	0.408**	0.402**	0.421**	0.441**	0.493**	0.438**	0.358**	0.331**	0.411**	0.403**	0.398**	0.507**	0.496**	0.539**	0.733**	0.662**	1.000	
(S-18)	0.427**	0.461**	0.485**	0.401**	0.457**	0.485**	0.364**	0.333**	0.533**	0.438**	0.551**	0.583**	0.380**	0.434**	0.496**	0.495**	0.598**	1.000

\*\*0. 相関係数は1%水準で有意（両側）です。

生徒(S)のアンケート調査項目

(S-1) 授業で、解決したいと思う問いが設定されている。	(S-10) 授業で、自分の考えを(先生に)肯定的に聞いてもらったことがある。
(S-2) 授業で、問いに対する、自分の考えをもつことができる。	(S-11) 授業で、先生から認められたと感じたことがある。
(S-3) 授業で、問いに対し、考えるための十分な時間がある。	(S-12) 授業が、「充実している」と感じたことがある。
(S-4) 授業集団の仲間と一緒に話し合う時間がある。	(S-13) 授業で、自分の考えを授業集団の仲間聞いてほしいと感じたことがある。
(S-5) グループ活動を行う授業では、自分の役割を理解している。	(S-14) 授業で、授業集団の仲間が、どんな考えを持っているか聞きたいと感じたことがある。
(S-6) グループ活動を行う授業では、自分から行動することができる。	(S-15) 授業で、授業集団の仲間の発言や良い行動を見つけようとしている。
(S-7) 授業で、自分の考えを発表する機会がある。	(S-16) 授業で、授業集団の仲間から認められたと感じたことがある。
(S-8) 授業で、自分の考えを発表することができる。	(S-17) 授業集団を、意見を認め合える仲間だと感じたことがある。
(S-9) 興味・関心をもって授業を受けている。	(S-18) 授業を安心して受けることができる環境となっている。

別紙資料3 スピアマンの順位相関係数一覧

生徒のアンケート調査結果（事後調査）

	(S-1)	(S-2)	(S-3)	(S-4)	(S-5)	(S-6)	(S-7)	(S-8)	(S-9)	(S-10)	(S-11)	(S-12)	(S-13)	(S-14)	(S-15)	(S-16)	(S-17)	(S-18)	(S-19)
(S-1)	1.000																		
(S-2)	0.583**	1.000																	
(S-3)	0.467**	0.543**	1.000																
(S-4)	0.402**	0.424**	0.485**	1.000															
(S-5)	0.485**	0.494**	0.411**	0.551**	1.000														
(S-6)	0.423**	0.487**	0.366**	0.467**	0.815**	1.000													
(S-7)	0.432**	0.470**	0.451**	0.588**	0.479**	0.402**	1.000												
(S-8)	0.470**	0.585**	0.434**	0.543**	0.621**	0.603**	0.610**	1.000											
(S-9)	0.637**	0.564**	0.400**	0.388**	0.501**	0.516**	0.408**	0.462**	1.000										
(S-10)	0.465**	0.575**	0.516**	0.514**	0.523**	0.469**	0.573**	0.562**	0.429**	1.000									
(S-11)	0.507**	0.503**	0.540**	0.540**	0.537**	0.498**	0.539**	0.549**	0.544**	0.637**	1.000								
(S-12)	0.592**	0.565**	0.490**	0.551**	0.629**	0.607**	0.532**	0.588**	0.590**	0.531**	0.624**	1.000							
(S-13)	0.438**	0.397**	0.280**	0.372**	0.560**	0.559**	0.431**	0.495**	0.351**	0.304**	0.385**	0.481**	1.000						
(S-14)	0.493**	0.452**	0.345**	0.435**	0.596**	0.574**	0.445**	0.484**	0.458**	0.430**	0.404**	0.530**	0.660**	1.000					
(S-15)	0.483**	0.445**	0.366**	0.484**	0.605**	0.636**	0.424**	0.441**	0.478**	0.461**	0.490**	0.552**	0.521**	0.631**	1.000				
(S-16)	0.457**	0.388**	0.348**	0.524**	0.614**	0.569**	0.549**	0.568**	0.439**	0.516**	0.598**	0.625**	0.615**	0.603**	0.642**	1.000			
(S-17)	0.454**	0.423**	0.400**	0.544**	0.699**	0.679**	0.522**	0.559**	0.489**	0.455**	0.524**	0.630**	0.585**	0.664**	0.717**	0.763**	1.000		
(S-18)	0.486**	0.438**	0.463**	0.462**	0.525**	0.436**	0.442**	0.444**	0.470**	0.529**	0.485**	0.643**	0.334**	0.441**	0.441**	0.535**	0.506**	1.000	
(S-19)	0.350**	0.376**	0.235**	0.400**	0.541**	0.579**	0.360**	0.487**	0.304**	0.320**	0.280**	0.450**	0.547**	0.542**	0.522**	0.558**	0.602**	0.424**	1.000

\*\*0. 相関係数は1%水準で有意（両側）です。

生徒(S)のアンケート調査項目(事後)

(S-1) 授業で、解決したいと思う問いが設定されている。	(S-11) 授業で、先生から認められたと感じたことがある。
(S-2) 授業で、問いに対する、自分の考えをもつことができる。	(S-12) 授業が、「充実している」と感じたことがある。
(S-3) 授業で、問いに対し、考えるための十分な時間がある。	(S-13) 授業で、自分の考えを授業集団の仲間に聞いてほしいと感じたことがある。
(S-4) 授業集団の仲間と一緒に話し合う時間がある。	(S-14) 授業で、授業集団の仲間が、どんな考えを持っているか聞きたいと感じたことがある。
(S-5) グループ活動を行う授業では、自分の役割を理解している。	(S-15) 授業で、授業集団の仲間の発言や良い行動を見つけようとしている。
(S-6) グループ活動を行う授業では、自分から行動することができる。	(S-16) 授業で、授業集団の仲間から認められたと感じたことがある。
(S-7) 授業で、自分の考えを発表する機会がある。	(S-17) 授業集団を、意見を認め合える仲間だと感じたことがある。
(S-8) 授業で、自分の考えを発表することができる。	(S-18) 授業を安心して受けることができる環境となっている。
(S-9) 興味・関心をもって授業を受けている。	(S-19) 今後、授業で、グループ活動が増えてほしいと感じている。
(S-10) 授業で、自分の考えを(先生に)肯定的に聞いてもらえたことがある。	



教員のアンケート調査結果（事後）

	(T-1)	(T-2)	(T-3)	(T-4)	(T-5)	(T-6)	(T-7)	(T-8)	(T-9)	(T-10)	(T-11)	(T-12)	(T-13)	(T-14)	(T-15)	(T-16)	(T-17)	(T-18)	(T-19)
(T-1)	1.000																		
(T-2)	0.262	1.000																	
(T-3)	0.059	0.071	1.000																
(T-4)	0.040	0.148	0.466**	1.000															
(T-5)	0.179	0.285	0.191	0.344*	1.000														
(T-6)	0.000	0.154	-0.129	-0.141	0.000	1.000													
(T-7)	0.119	0.330*	0.028	-0.163	0.153	0.474**	1.000												
(T-8)	0.253	0.153	0.049	0.110	0.266	0.000	0.337*	1.000											
(T-9)	0.302	0.427**	0.083	0.119	0.389*	0.332*	0.487**	0.268	1.000										
(T-10)	0.107	0.313	0.004	-0.033	0.320*	0.350*	0.311	0.038	0.586**	1.000									
(T-11)	0.342*	0.392*	0.151	-0.041	0.422**	0.349*	0.471**	0.265	0.841**	0.681**	1.000								
(T-12)	0.128	0.406*	0.105	0.151	0.274	0.163	0.342*	0.012	0.554**	0.584**	0.602**	1.000							
(T-13)	0.120	0.254	0.266	0.521**	0.284	-0.159	-0.165	0.205	0.324*	0.344*	0.250	0.427**	1.000						
(T-14)	-0.061	0.026	0.039	-0.033	0.039	-0.169	0.107	-0.050	0.088	0.052	-0.003	0.140	0.287	1.000					
(T-15)	-0.090	0.070	0.446**	0.467**	0.061	-0.153	-0.007	-0.077	0.068	0.087	-0.071	0.181	0.350*	0.505**	1.000				
(T-16)	0.110	0.174	0.022	0.346*	0.172	0.145	0.145	0.060	0.309	0.324*	0.125	0.270	0.353*	0.279	0.628**	1.000			
(T-17)	-0.035	0.168	0.305	0.220	0.176	0.000	0.332*	-0.033	0.283	0.336*	0.233	0.405*	0.261	0.416**	0.638**	0.589**	1.000		
(T-18)	-0.033	0.032	0.592**	0.226	-0.291	-0.209	-0.070	-0.098	-0.071	-0.183	-0.038	-0.023	-0.021	0.067	0.370*	-0.013	0.151	1.000	
(T-19)	0.104	0.216	0.576**	0.189	0.038	-0.109	0.021	-0.047	0.080	0.020	0.157	0.244	0.177	0.197	0.309	0.011	0.302	0.516**	1.000

\*\*0. 相関係数は1%水準で有意（両側）です。

\*0. 相関係数は5%水準で有意（両側）です。

教員（T）のアンケート調査項目（事後）

(T-1) 授業で、生徒に考えさせる問いを出している。	(T-11) 授業に関する生徒の発言は、肯定的に受けとめるようにしている。
(T-2) 授業で、生徒が考えるための時間を十分に取っている。	(T-12) 授業で、多様な意見を認めるよう生徒に促している。
(T-3) 授業で、グループをつくり、話し合っている。	(T-13) 授業で、生徒が安心して自分の意見を伝えることができるよう、間違いを言っても大丈夫な雰囲気を作っている。
(T-4) 授業で、生徒が考えを発表する場を設けている。	(T-14) 生徒は、授業に積極的に参加している。
(T-5) 授業で、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。	(T-15) 生徒は、授業で、グループ活動に積極的に参加している。
(T-6) 授業で、生徒の学習到達度に応じた指導を行っている。	(T-16) 生徒は、授業で、自らの考えを自信をもって発言している。
(T-7) 授業で、生徒の個々の特性に応じた指導を行っている。	(T-17) 授業で、生徒同士が互いに助け合っている。
(T-8) 授業で、生徒が考え行動するための指示を具体的にしている。	(T-18) 前期の授業と比較して、後期の授業では、グループ活動を増やした。
(T-9) 授業で、生徒の発言や良い行動を褒めるようにしている。	(T-19) 今後も、授業でグループ活動を積極的に取り入れたいと感じている。
(T-10) 授業で、誤った答えや不十分な答えを言った生徒には支援している。	